

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和4年度】

2023 年 3 月 31 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	山本 吉士郎	経営	H1201029
	②	岡崎 圭子	福祉	H0902004
	③	萩原 康子	福祉	H1801071
	④			
	⑤			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	元麻布保育園			
事業所連絡先	〒	106-0046		
	所在地	港区元麻布2-14-12		
	TEL	03-5422-7338		
事業所代表者氏名	園長 加苅 則子			
契約日	2022 年 5 月 31 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2022 年 7 月 4 日			
利用者調査結果報告日	2022 年 9 月 21 日			
自己評価の調査票配付日	2022 年 7 月 2 日			
自己評価結果報告日	2022 年 9 月 21 日			
訪問調査日	2022 年 9 月 29 日			
評価合議日	2022 年 9 月 29 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、Webによるアンケート調査を行った。またWebでの回答が難しい保護者については、紙面のアンケートを配布し、記入後は返信用封筒に入れ、直接評価機関へ郵送してもらった。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2023 年 3 月 31 日

事業者代表者氏名 園長 加苅 則子

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） (1) あんしん まごころを提供する (2) 子どもの生きる力を信じ、支え、育てる (3) ゆったりとした環境の中で一人一人の子どもとのかかわりを大切にし細やかな援助を行う (4) 個性を大切にしたい保育を行い友達との触れ合いを通じて思いやりの心を育てる (5) 一人ひとりにあった見守り、援助を行い、子どもたちが様々な経験や刺激を受け心豊かな園生活を送れるようにする
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） (1) 職員に求めている人材像や役割 ・もっと子どもを好きになろう “子どもが好き”で選んだこの道、ここが私達の保育の原点である。しかし、職業として子どもと関わっていくためには、今よりもっと深く子どもを好きになろう。深くとは、子どもを目に見える行動でのみとらえるのではなく、「苦手なことに挑戦しよう」という気持ちが出てきた」というような心の動きに着目し、その変化を感じ取るということである。 私達は、子どもの「できた」に共感しながら、その内にある心の育ちをしっかりと受け止め、子どもと一緒に成長し合える保育者であろう。 (2) 職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・もっと人として成長していこう 保育者自身の育ちとは、保育の力量を向上させることであるが、それは技術や知識の向上だけではないはずである。子どもと一緒に喜んだり、感動したり、時には苦しんだり、行き詰まりを感じたり、そんな自分自身に悩んだり、そういう心の揺れ動きの中から生まれてくる人間性の深まりこそが、本当の意味での保育の力量（子どもを大切に見守り導く力）なのだと思う。 私達は、子どもに学び同時に保育者同士のつながりを大切にしながら、子どもの喜びや幸せを自分の生きがいにする人であろう。 ・もっと楽しく仕事をしよう 自らが志を持って職業に就き、望んで就いたこの職場。年齢も感性も保育観も違う私達であるが、今、自分の持っている力を精一杯出し切って、保育を全うしていきたいという思いは、皆、同じはずである。毎日の泣き笑いの中に、この仕事の面白さが溢れている。だから、仕事を楽しまう。その楽しさを皆で分かち合おう。保育という営みの奥の深さをじっくり味わいながら、1歩ずつ前へ歩み続ける私達であろう。

調査対象

全園児世帯の保護者を対象とした。
複数の在園児がいる場合は、最年少の子どもに対しての回答をお願いした。

調査方法

Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。また、Webでの回答が難しい保護者については、紙面のアンケートを配布し、記入後は返信用封筒に入れ、直接評価機関へ郵送してもらった。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

168

156

156

67

42.9

利用者調査全体のコメント

調査対象世帯156世帯のうち、67世帯から回答を得ることができた。満足度の高い項目として、「保育所の活動は、子どもの心身の発達に役立っていますか」「施設内の清掃、整理整頓は行き届いていますか」「職員の接遇・態度は適切ですか」「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっていますか」「子どもの気持ちを尊重した対応がされていますか」「行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分ですか」などがあげられる。
総合的な満足度では、57世帯が「大変満足、満足」、8世帯が「どちらともいえない」、2世帯が「不満」と回答している。
「今年度からアプリの導入や、今週の保育内容等が掲示されるようになり、良かったです」「先生方は子どもと向き合い、園庭や工作など工夫してくれます」「子どもがとても楽しそう通園しています」「大規模な園のため、先生方の負担が大きいように感じます」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	62	4	1	0
62名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 「さまざまな活動があり良いです」「子ども個人の成長状況に合わせて活動やコミュニケーションを考えてくれていると思います」「ホールや園内の階段、園庭で体を動かすなど、先生から愛情をもらいながら心身共に成長させてもらっています」などのコメントがあがっている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	55	12	0	0
55名が「はい」、12名が「どちらともいえない」、と回答している。 「幼児クラスになってから始まったリトミックがとても楽しいようです」「季節のイベントなどを通していろいろな知識を得られています」「普段の様子があまりわかりません」などのコメントがあがっている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	52	12	3	0
52名が「はい」、12名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。 「離乳食の形状や調理の仕方のアドバイスをもらえて、家庭の食事の参考にもなり助かっています」「手作りのおやつで補食を提供してもらえます」「味はわかりませんが、時々見た目でも楽しませてほしいです」などのコメントがあがっている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	45	17	5	0
45名が「はい」、17名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」と回答している。 「都会の真ん中ですが、近くの公園に出掛けて自然と触れ合ったり、消防署の見学に行くなどいろいろしてくれています」「もっと園外散策に連れて行ってほしいです」などのコメントがあがっている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	36	11	5	15
36名が「はい」、11名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」と回答している。 「かなり柔軟な対応をしてくれて感謝しています」「まだ利用してないのでわかりません」などのコメントがあがっている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	54	8	5	0
54名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」と回答している。 「小さなケガでもしっかり報告してくれます」「園にいる時にだけでなく、登園降園時にまで気を配っています」「感染症の感染対策はもう少し徹底的にしてほしいです」などのコメントがあがっている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	54	10	3	0
54名が「はい」、10名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。 「土曜日も親子イベントを開催してくれ感謝しています」「週末に開催してくれ参加しやすいです」「時間帯をもう少し早めに知らせてもらえると予定が立てやすいです」などのコメントがあがっている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	48	14	5	0
48名が「はい」、14名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」と回答している。 「送迎の際に質問相談の時間が十分あり、しっかり対応してくれます」「担任の先生にも個人面談などで詳しく様子を聞かせてもらえます」「送迎のときは先生と話す時間が短く、話にくいです」などのコメントがあがっている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	60	5	2	0
60名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 「いつも係の方が掃除をされていて、清潔が保たれています」「清掃が常にされていて、とても清潔だと思います」などのコメントがあがっている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	56	5	6	0
56名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、6名が「いいえ」と回答している。 「先生から挨拶をしてくれたり、ほかの先生方も積極的に声をかけてくれます」「マスクで顔がわからないので、名札を見える位置に付けてほしいです」「先生方はよく子どものことを見てくれています」などのコメントがあがっている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	52	7	6	2
52名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、6名が「いいえ」と回答している。 「自分の子どもだけでなく、周りの子どもたちへの影響も考えてもらっていると感じます」「小さなケガや傷でも丁寧に状況説明してくれます」「引取り時にきちんと情報が引継ぎされていないこともあるので、改善してほしいです」などのコメントがあがっている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	28	16	7	16
28名が「はい」、16名が「どちらともいえない」、7名が「いいえ」と回答している。 「指導方針は面談などでも随時確認できており、問題が起きた際の対応もそれに沿っています」「子ども同士のトラブルへの対応が十分ではないと感じることがあります」などのコメントがあがっている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	54	11	2	0
54名が「はい」、11名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 「個々の意見を聞いたり受け止めたり、子どもを尊重してもらっていると感じます」「子どもが言えない苦手なものに気づいてくれました」「素晴らしい先生方でよく子どものことを見てくれていると思います」などのコメントがあがっている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	54	6	0	7
54名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、と回答している。 「写真や動画撮影に関して徹底されています」「十分守ってくれていると思います」などのコメントがあがっている。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	48	15	4	0
48名が「はい」、15名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」と回答している。 「毎日、連絡帳に丁寧に園での様子を書いてくれるので楽しみです」「最近活動の内容が週ごとに書かれているので把握しやすいです」「アプリになってから日々の生活がわかりやすくなりました」などのコメントがあがっている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	44	10	6	7
44名が「はい」、10名が「どちらともいえない」、6名が「いいえ」と回答している。 「アンケートなどで改善してほしいところを書くときちんと対応してくれます」「個人面談で話した内容について、次の面談でも経過を気にしてくれています」「質問に対する回答が遅かったり、説明不足とすることがあります」などのコメントがあがっている。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	23	15	15	14
23名が「はい」、15名が「どちらともいえない」、15名が「いいえ」、14名が「無回答・非該当」と回答している。 「特にそのような案内はなかった気がします」「区が管理しているのか、誰が責任を持っているか不明瞭です」などのコメントがあがっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
	カテゴリ1の講評		
	保育理念「あんしん、まごころの提供」を掲げて、保育運営を行っている 元麻布保育園は区立認可保育園として指定管理者「社会福祉法人春和会」が運営を担っている。また園として、保育方針、保育目標を定めて日々の保育を行い、職員には定期的な会議と掲示、および年初の説明会に於いて周知を図っている。また、新入職員、中途入社職員には入社時の研修によって周知している。保護者には入園時に配布する「入園のしおり」によって、園の考え方を説明すると同時にホームページ、園だより、園内掲示等あらゆる機会を捉えて説明をしている。		
	園長は組織のリーダーとして先頭に立ってその役割を発揮している 園長は、常に港区及び法人(本部)の方針を念頭の置きながら、園で実践するため、職員の先頭に立って役割の発揮に努めている。とりわけ、当園は「乳児」、「幼児」の他「医療的ケア・障害児」を預かっているため、多くの職種の職員配置や職務分担の決定、育成を行っている。職員の個々の希望や特性を把握して、法人(本部)と連携して計画的な育成をしている。同時に保護者支援や地域との交流及び年度計画や各プロジェクトの推進を統括している。		
	重要な案件について、審議したり、決定したりする手順は決められている 重要な案件は本部会議、本部稟議申請で決定して職員に通知している。同様に港区からの通知も園長を通じて、職員や場合によっては保護者に知らせている。また、園として決定すべき案件は、リーダー会議で検討して、職員会議を通じて周知を図っている。その際に決定に至った背景についても説明している。但し、案件によっては各クラス、専門職での討議を経る場合もある。利用者(保護者)に関わる案件は、手紙・園だより・掲示・保護者会などを使い分けて伝えている。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 カテゴリー2		
サブカテゴリー1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6 評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 標準項目 評価 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当		
サブカテゴリー2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 標準項目 評価 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当 評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 標準項目 評価 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当		
カテゴリー2の講評 事業運営のニーズを把握するため、保護者や職員の意向を捉え課題の抽出に努めている 保護者の要望や意向を把握するためアンケート、ご意見箱、行事毎の感想等をお願いしている。職員からは、定期的な面談によって様々な意見を得たりしている。とりわけ、年度毎に行う職員満足度調査結果は本部にてデータを解析して様々な項目における各職員の意識の変遷を分析している。これらの結果から、課題を抽出して今後の運営の改善に役立てている。当園は区立保育園であることから区担当部門との定期的な会議を行い「改善シート」の下で課題を共有している。 港区「地域保健福祉計画」をもとに、園の年度ごとの事業計画を作成している 港区が策定する「地域保健福祉計画」の中期的な指針と、法人の「指定管理契約書」の主旨を盛り込んで、年度事業計画書を作成している。年度事業計画書には基本的な事項として保育理念・保育方針・保育目標を記載している。本年度の園運営の骨子として保育定員・職員体制・組織図が記述され、さらに、避難訓練・定期健康診断や園の独自事業への取組を表明している。同時に、「入園のしおり」、「全体的な計画」は年度ごとに改訂し、職員に周知している。また、年間行事予定表は、極力日付を入れたものを年度当初に保護者に配布するよう努めている。 着実な計画の実行に向けて、必要に応じて期中途中で計画の見直しを行っている 年齢(クラス)ごとの指導計画は、「保育所保育指針」や「全体的な計画」に則っている。その際に、乳児・幼児・医療的ケア主任と各専門職及びクラスリーダーを中心に、子どもたちの実態と発達を盛り込んだ案を作成している。これを、職員会議で、十分に検討して決定している。また、期、月、週単位での進捗管理で着実な実行を確認し、必要に応じて見直しを行っている。行事・避難訓練等の計画は前年の反省を踏まえて担当者が実行案を作成して、負荷を検討の上決定している。計画類の進捗は、職員会議の議題に上げて認識を共有している。		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー3の講評
	福祉サービス事業に従事する規範のための基本的な手順を、マニュアルに則って学んでいる 職員が福祉サービス事業に従事するための規範は、入社時に「元麻布保育園保育マニュアル」によって説明を受けている。また、保育理念・方針や行動指針を初めとして、人権尊重と個人情報保護、プライバシーポリシー、ハラスメントについて継続的に学習する体制を整えている。特に「心得として基本行動指針 6つの心」を定めて具体的な事例と共に、原点に立ち返るように職員個々に冊子を渡して周知を図っている。さらに、マニュアルは日々の保育を行うための基本的な手順を分かりやすく解説して、業務の実践に臨んでいる。 保護者等からの苦情等を受け付ける窓口を明示して、解決への手順を定めている 保護者から意見・要望・苦情を受けるための窓口は「入園のしおり」に、園内、法人（本部）、区の各総合支所及び保育課の連絡先を明示している。当園では、これらを受けた場合、自らの保育と保護者への対応を振り返る機会と捉えている。また、「ご意見箱」を玄関ロビーに設置している。園内での情報伝達の仕組みを「保育マニュアル」にフローとして表し、全職員が対応できるようにしている。さらに、書式化された意見・苦情記録簿の記入によって、解決までの流れの検証や原因究明、再発防止に役立てている。 子どもたちの権利を擁護して、不適切な対応の防止に組織として取り組んでいる 新規に入社した職員には、子どもの人格、人権を尊重し、言動には十分注意するよう教育を行っている。全国保育士会倫理綱領を参考にして、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」によって、確認している。日常業務では、管理職によるラウンドや職員アンケートによってフォローアップしている。また、子どもたちには、朝の登園時の視診、着替え時チェックや普段の態度の観察等により虐待の疑いの発見に努め、その場合は速やかに外部機関に相談できる体制を整えている。必要に応じて保護者との面談を行い、疑わしい事例の早期発見に努めている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
「安心・安全」を実践するため、リスクマネジメントに取り組んでいる 当園は高台に立地しており、ハザードマップ上の危険は無いが、周辺の道路が狭く、交通量が多いため、登降園や園外保育時での注意喚起には気を配っている。特に、「安心・安全」への理解のため、危機管理、アレルギー対応、感染症対応、救急対応等の研修受講を全員に義務付けている。また、年間計画として避難訓練等を行い、日頃から園経営層・管理層は、子どもの安全を脅かす事故や感染症をはじめ、通常の園活動の継続を阻害する要因をリスクと捉えて備えている。 「ヒヤリハット記録」のさらなる分析により、事故につながる原因の共有に期待する 病院の受診が必要となるような事故が発生した時は、その内容、経過、原因などを分析して職員が共有して、再発の防止に努めている。これらの発生を極力防ぐため「ヒヤリハット」に関する記録を積極的に残すように努めている。事故につながる可能性のあるたくさんの事例を分析する事によって1件の事故を防ぐ目的を持っている。当園が開園して間もないため、収集したデータは十分では無いが記録の集計、分析によって発生の傾向を掴んでいく事と、危険予知訓練につながっていく事を期待する。 個人情報の保護について職員に周知し、保護者には重要事項として説明している 個人情報保護に関して、規定を定め職員会議等で継続的に学習している。また個人情報を含む文書類の保管方法及び電子データ類は規定に従って運用している。保護者には、入園時に重要事項として、園が保育を提供するために知り得た情報に関して守秘義務を課し、誓約を得ている事を説明している。それらの情報を外部の公共機関等に提供する際のルール及びパンフレットやホームページなどに掲載する児童の写真等を使用する場合には保護者の同意を得ている。また、行事等での撮影に関して制限事項を設けて了解を得ている。		

5			カテゴリー5	
職員と組織の能力向上				
サブカテゴリー1(5-1)				
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる			○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している			○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している			○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている			○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている			○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている			○非該当
サブカテゴリー2(5-2)				
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている			○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる			○非該当

	カテゴリー5の講評
	職員の採用は法人（本部）が担い、一元管理の下、見学会、説明会を行っている 当園は開園して約3年であるため、新たな人材を必要としている。職員の採用は法人（本部）の一元管理の下、人材斡旋会社に委託している。見学会や説明会には当園職員も参加して、参加者や応募者と接している。医療的ケアが必要な子どもや、障害児を迎えるため多数の職種を必要としているため、法人の理念や保育への取り組み姿勢を特に丁寧に説明し、入社後の配属でのミスマッチを防ぐ努力をしている。また、保育業務に関連する教育機関にパンフレットを送ったり、訪問したりして法人の役割及び園の特色を説明し、応募につなげている。 職員の育成や公平な処遇を行うため目標管理を行い、個々の能力を伸ばしている 事業所として長期的な展望に立った人材育成の方針を明確にして、各職員はそれぞれ目標を持って仕事に従事できるような指針を与えている。職員は年度毎に、自己評価、目標設定を行い上司との面談に臨み、業務に関する考え方を話し合っただけでなく、プラス志向に導いている。習得すべき知識・技能に対して様々な研修プログラムを用意してそれぞれのキャリアアップにつながる研修方針を話し合っている。なお、園の特性として子どもの送迎を行っているため、ドライバーへの研修を行い、子どもたちへの安全確保に努めている。 職場を働きやすい環境にするために職員満足度調査を行い改善に努めている 当園は区立保育園として区内で初めて医療的ケアを必要とする子ども及び障害児の集団保育を行う園として約3年前に開設された。新規の職員が働き甲斐を持つ事と定着に結び付く取り組みの一環で満足度調査を行っている。「仕事」、「業務負担」、「上司」等11項目にわたる意識の調査を行った結果を分析し、特にネガティブな回答に対して早急に対策を講じ、改善に努めている。また、これらから得られた情報を分析した結果、更に質の高い仕事、自立性に対する意識が芽生えてきたことも当園の今後に明るい展望が確認された。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)			
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている			
評価項目1			
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)			
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)			
【課題・目標】昨年度より、理念を実現するための重要課題の取り組みとして「事故防止」「子どもの人権について」の研修の実施を計画した。【理由・背景】本件を抽出した理由は、『「あんしん」「まごころ」を提供』という理念の実現に向けた重要な要素である事と考えた。また、特定の児童に病院の受診を伴うケガをした事が背景となっている。 【取り組み】園内会議に於いて、以下を実施する事を決定した。 ・園内危険箇所の洗い出し ・ヒヤリハット記録を洗い出して、会議参加者が自由に意見を出し合う事によってそれぞれのアイデアをまとめて危険な箇所を抽出し、その場所や写真まとめて、注意喚起をした。 ・研修の実施 「子どもの人権について」代表者が外部研修を受講して、資料を持ち帰って職員に内部研修において展開した。 【取り組みの結果と検証】会議や園内研修を実施した結果、職員の関心は高く、一定の成果があった。また、参加者の中で理解の程度に多少の個人差が見られたため、全体的なレベルアップを図る必要性を感じた。			
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評			
【評価に関して】本件に関しての、職員の全体的なレベルアップが必要であるため、この取り組みを行った。その結果、やるべき課題が抽出されたため今年度も継続して行う事とした。 【講評】研修を受講して、グループディスカッションを行い職員の多様な意見を皆で話し合う事は重要な事と考えられる。特に「ヒヤリハット記録」の重要性の認識と、「危険予知」へのさらなる訓練を継続する事を期待する。			
評価項目2			
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)			
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)			
【課題・目標】昨年度の取り組みのうち1つは、「子ども主体の保育を実践していくこと」を課題とした。 【理由・背景】課題としたのは、法人全体で「子ども主体の保育を目指す」を方針として掲げている事が理由である。 【取り組み】以下を実施しました。 ・歳児別研修 ・主任研修 ・実践報告会を実施 以上の研修は法人が中心となりWEB研修によって開催され、実践報告会は当園から10名参加した。 【取り組みの結果と検証】 研修については、職員の入れ替わりがあり、初めての取り組みであったことから効果の把握が十分な検証に至らなかった。ただし、発表を担当したクラスはその準備段階から熱心に討議して発表に臨んだため意識が上がり十分な成果を得る事ができた。今回は法人主体の取り組みであったため、当園内の全体で「子ども主体」について話し合う機会が少なかった。今年度はリーダー会が中心となって活発に話し合う機会を増やすよう計画している。それらの活動状況は主任、副園長が中心となって検証を行って実践状況の確認を行う事を予定している。			

目標の設定と 取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
【評語に関して】 法人が主体となって「子ども主体の保育を実践していく」を傘下の各園への啓発を行い、理解を深めていく努力は、当園の新設園としてのやるべき課題として認識している。 【講評】研修はWEBを通じて行ったため、職員の業務負担は軽減された。実践報告会に向けたクラスでの討論を通じて、各職員が意見を述べる機会もありクラス討論の活性化につなげる事ができたのも、今回の取り組みの効果と考えられる。	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		
	評点(〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
	サブカテゴリー1の講評		
	週1回見学会を実施しており、国際交流プログラム、インクルーシブな環境を伝えている 外国籍の親子も多く住んでいる地域であり、当園でも国際交流に積極的に取り組んでいる。入園希望者の見学会は、園の独自事業である国際交流プログラムの時間に合わせて実施されており、活動を見てもらっている。また多様な子どもたちが共に過ごすインクルーシブな環境であることも伝えている。園には英語で案内できる職員もおり、日本語のわからない保護者に対応している。園の活動見学の他、各種設備の説明、園の1日のスケジュールなどを説明し、併せてパンフレット等、説明資料も配布している。 医療的ケア児・障害児対応のクラスがあり、個別の都合に合わせて見学してもらっている 当園は、区で初めての医療的ケア児・障害児対応のクラスを配置している。全国でも珍しい、先進的な取組のため、他自治体からも保育・福祉等の関係者が多く見学に訪れている。入園を希望する親子は、主として区のホームページや情報紙などで情報を入手している。園では個別の都合に合わせて見学日を設定し、案内を行っている。園の建物はバリアフリーであり、車いす用トイレ、エレベーターほか、障害があっても園の生活を楽しめるよう環境が整備されている。送迎車、障害者用駐車スペースなどもあり、安心・安全に登園できることを伝えている。 園の情報は区のサイト、園のパンフレットなどで情報提供している 園情報は、区のホームページ、園のパンフレットなどのツールを用いて伝達している。区のホームページでは、当園が区で初の医療的ケア児・障害児の集団保育を行う保育所であることが強調して伝えられていた。園の三つ折りリーフレットには、必要な情報がコンパクトにまとめられていた。園の保育理念、保育目標、施設案内、行事、一日のスケジュールなど、入園希望者に必要な情報が記載されていた。今後は、園のホームページなどを活用し、バリアフリー設備、環境などを写真などでも伝えていくと更に良いと思われる。		

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
入園に際して個別面談、家庭訪問を実施し、子どもの様子を丁寧に聴き取りしている 入園に際し、保護者の思いや意向を個別面談で丁寧に聴き取りしている。4月には園の概要や重要事項に関する集団説明会もある。入園時には、園長、副園長、各クラスの担当保育士、看護師、栄養士などが立会い、子どもの様子、家庭の状況を確認している。当園では新入園の医療的ケア児・障害児に対して家庭訪問も実施し、園長、副園長、看護師らで行っている。家庭環境を確認し、入園後、家庭と園の環境の違いから子どもにストレスが生じないよう、気を配っている。併せて入園のしおりも配布し、園の方針や決まり事などをわかりやすく説明している。 保護者の職場復帰、子どもの不安やストレスをくみ取りながら慣らし保育を実施している 慣らし保育は概ね2週間をめどとし、保護者の職場復帰に向けて計画を作成している。計画は副園長が確認する体制がある。子どもの不安やストレスを軽減するため、家庭訪問を通じてこれまでの生活リズムを確認したり、基本的に同じ職員が同じ子どもに対応したりするなど、様々な配慮が行われていた。また医療的ケア児、障害児クラスについては、看護師が慣らし保育の計画作成をしている。このクラスの子どもは、環境の変化で大きく体調を崩しやすいため、家庭でのケアを園でも同様に取り入れるよう気を配っている。 特に医療的ケア児、障害児の卒園時は、小学校とより密な連携を図っている 新型コロナウイルス感染症の流行もあり、卒園に向けて小学校と交流・連携することが難しい状況が続いている。しかし子どもがよりスムーズに就学できるよう、引継ぎ文書の作成や電話などで情報交換に努めている。また、要録を持参する際に、小学校と顔の見える関係づくりを行っている。これらの働きかけの甲斐もあり、近隣小学校と園との関係性が向上している。今年度は医療的ケア児・障害児向けにむけて、教育委員会の担当者が来園し、児童の様子を見ていただき、小学校でどこまでケアができるのか、確認をしている。		

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
各種の会議体や記録物等を通じ、子どもに関する情報共有体制が作られている 子ども個々の日々の様子、家庭の状況等は、会議や記録物などを通じて、職員間で共有が図られている。会議は、クラス会議を始め、クラスリーダー会議、定例職員会議があり、情報の共有や保育に関する意見交換等、話し合いがもたれている。当園では難しい課題を抱える親子も積極的に受入れしており、必要に応じて臨時的職員会議も開催されている。記録類は、法人の各園で利用されているシステムによって作成されている。また職員連絡ノート等で申し送りがなされている。今後は区の保育業務支援ソフトの更なる活用も検討されたい。 保護者に保育計画をわかりやすく説明するとともに、意向を聴き取る機会も作っている 園の全体的な計画は、入園のしおりにも挟み込まれており、説明会や保護者会等で説明がなされている。園の取り組みは積極的に保護者に伝える方針であり、インクルーシブな保育、活動等の目的を、保護者にも理解していただくよう努めている。他にも、週案や写真の掲示、園だよりの記事などで保育の計画や内容を伝えていた。区の保育業務支援ソフトの配信機能を利用した活動紹介も始めたとのことで、今後の継続が期待される。保護者の意向・要望は個別面談、アンケート、意見箱などを通じて、くみ取る体制がある。 職員の人数が多く、特に非常勤保育士との情報共有は今後の課題と捉えている 当園は、医療的ケア児、障害児も含め約200名を預かる、比較的大規模な園である。非常勤の保育士も数多く、医療的ケア児等の送迎車のドライバーはほぼ非常勤である。これらの非常勤職員は勤務時間が個別に様々であり、昼礼や申し送り、会議への参加などが難しい現状である。非常勤職員の持つ子どもの情報、各場面での気づきをいかに吸い上げ、また日々の情報を共有していくか、園では課題と捉えている。システムや引継ぎノートなどを使うなど、検討していくことが期待される。		

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
子ども個々の多様性を受け入れる、インクルーシブな保育の実践に努めている 当園では、国籍、障害特性ほか、さまざまな個性や事情を持つ子どもたちを積極的に受け入れ、インクルーシブな保育に取り組んでいる。個々の価値観、生活習慣、必要な配慮などは、個別の保育計画に反映されている。国際交流のプログラムが例年実施されており、外国人講師とともに楽しみながら、人種・文化・言語を知る機会がある。縦割り保育では、医療的ケア児・障害児クラスの子どもも共に参加し、年齢、国籍、障害などを問わず、ともに遊び、いたわり合う姿が確認できた。今後はより一層、保護者の理解を深めることも期待される。 各クラスに子どもの人権に関する本が置かれ、いつでも閲覧できるようになっている 各クラスに子どもの人権に関する本が置かれており、職員がいつでも閲覧できるようになっている。『子どもの最善の利益から考える保育実践例 子どもの幸せってどんなこと? ちょっと気になるとなる保育』と題された本書は、法人が各園に配布しているものである。この本は保育士各自が閲覧するほかに、クラス会議、職員会議で読み合わせなどもしている。巻末には、子どもの権利条約も掲載されていた。また、「子どもの幸せのためのチェックリスト」も掲載されており、園では年に2～3回、全職員が記入し、振り返りの機会としている。 子どもの羞恥心に配慮し、着替えやオムツ交換の場所などに気を配っている まだ幼い子どもではあるが、羞恥心に配慮した保育を心がけている。着替えの際は、必ずロールカーテンを下ろすようにしている。またトイレには仕切りがあり、他児から見えないよう気を配っている。オムツ交換台もトイレ内にある。やむを得ず、クラス内でオムツ交換をする場合でも、人目に付かないよう目配りしている。水遊びで水着に着替える際は、プライバシーゾーンが見えないよう、必ず男女別々に行っている。一方で、保護者が自由に使えるオムツ交換台は、送迎時に保護者が出入りする、廊下に面した場所に設置されており、目隠しが必要と思われる。		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
新人職員がマニュアルの不明点抽出を行い、次の改訂に反映している 当園独自のマニュアルが作成され、区のガイドラインとともに職員が遵守している。マニュアルは各クラスの見やすい場所に置かれていた。日々の業務を始め、マニュアルに記載された内容は、主としてリーダー会議で見直しを行っている。特に新人の職員がマニュアルの読み込みをした際、わかりやすかった箇所、わかりにくかった箇所を抽出して書き出して貰っており、これをもとに改訂をしている。今後は、早番・遅番業務のマニュアルも作成すると、更に良いと思われる。		
マニュアルに目次および改訂日・改訂箇所を明示すると、更に見やすくなる マニュアルは新人職員からの気づきを得て、リーダー会議で見直し・改訂を行っている。よりわかりやすいマニュアル作りが行われていることが確認できた。一方で、マニュアルに目次が無く、改訂箇所や改訂年月日なども明示されていなかった。目次があると、見たい場所が探しやすくなるため、今後は作成していくことが勧められる。また改訂年月日や改訂箇所も明示すると、より職員間でマニュアルの変更を共有しやすくなると思われる。今後の改善が期待される。		
保護者からの意見・要望についても、必要に応じて保育に随時、反映している 提供している保育サービスについて、保護者の意見・要望を反映する体制がある。園内にはご意見ボックスが置かれ、定期的なアンケートも実施している。事故等が起きた際は、再発防止の対策を行い、保護者会等を通じて説明もなされている。過去には、子どもたちの視野を広げ、関わりをより一層増やす目的で、縦割り保育の強化を行った例もある。子どもたちの様子、保護者の意見を随時吸い上げ、保育サービスに反映していることが確認できた。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サブカテゴリ4																						
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 35/35																					
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつきの等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>		評価	標準項目		●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○非該当	●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつきの等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当
評価	標準項目																					
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当																				
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○非該当																				
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当																				
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当																				
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつきの等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当																				
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当																				
評価項目1の講評 異年齢交流や他の子どもとの生活を通して、互いを尊重する心が育つよう配慮している 年齢の違う子ども、外国籍の子ども、特別な配慮が必要な子どもが共に過ごす中で、互いの違いを認め合い、相手への思いやりや尊重する心を育てている。日常の保育を通して、世の中にはいろいろな人がいることを子ども自身が感じ、言葉や習慣が異なる人間の多様性を学んでいる。運動会は3～5歳児の縦割りチームで取り組み、訪問調査当日はホールでダンスを練習する場面があり、5歳児が3歳児の手を引いたり、配慮が必要な子どもが友だちと一緒に曲に合わせてリズムカルに踊る姿など、幼い頃から多様な文化に触れている頼もしい姿が見られた。 子どもの同士のトラブルは、双方の気持ちを汲み取りながら子どもの安定を図っている 発達の過程で見られるかみつきのトラブルが生じたときは、前後の様子を見ていた職員が双方の子どもに理由を聞き、子どもの思いに気持ちを馳せ、子どもの感情を表情から読み取って言葉にして返したり、気持ちを代弁したり、かむという手段を使わなくてもコミュニケーションが取れる方法を知らせている。迎え時には双方の保護者に状況を説明し、園での対応を伝え、止められずに申し訳ないとお詫びをしている。職員会議では、行為の裏には訳があるという考えのもと、子どもの発達や仲間外れ等をテーマに事例検討を行い、保育のあり方を振り返っている。 小学校への円滑な接続に向けて、就学を意識した取り組みを行っている 小学校への滑らかな接続に向けて、5才児は港区の「小学校入学前カリキュラム」を推進し、3,4歳児は保護者との連携を大切にするために「家庭で大切にしたいことハンドブック」を活用することを園全体の計画に織り込んでいる。園から就学先の小学校に送付する年長児の育ちの資料「保育所児童保育要録」は、園の職員が小学校に出向き手渡している。その際、事務的な提出に留まらず、子どもの状況や配慮事項を丁寧に伝達し、必要に応じて教員と園職員による面談を実施するなど、就学に対する期待を膨らませ、不安を軽減できるよう援助している。																						

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
登園時の健康チェックを入念に行い、子どもの状況に配慮した保育を行っている 感染症予防の観点から0～2歳児室に前室を設け、登園時の視診や健康観察、保護者からの聞き取りを行っている。子どもや保護者の状況や気なることはクラスの引継ぎノートに記載し、職員間での共有化を図り、登園時の様子と連絡帳から子どもの状況を把握し、その日の保育に配慮している。予防接種や乳幼児健康診査を受けた際は、前室に備え付けた「予防接種覚書」、「乳幼児健診覚書」に保護者が記入し、園に提出することで家庭との連携を図っている。受け入れ時に子どもが母親と別れることが難しい場合は、外から様子を見てもらうようにしている。 年齢や発達に応じた生活習慣の自立に向けて、個別の援助と関わりを大切にしている 0,1,2歳児及び個別な配慮を必要とする子どもには、一人ひとりの指導計画や支援計画を立案している。期毎のデイリープログラムや夏季のプールデイリープログラムを作成し、一日の大まかな流れと活動に対して見えてくる子どもの個人差や個性を見極め、個々の子どもに応じた関わりを丁寧に進めていくことを大切にしている。自分でやるうとする気持ちを尊重し、子どもの動線を考慮して、排泄、食事、睡眠など生活のスペースを分け、お互いが邪魔されることなく過ごせる空間作りに努め、毎日の生活リズムの安定を図っている。 子ども一人ひとりの発達や状況に合わせて、その子に必要な休息や午睡を保障している 寝具は園で貸し、通し番号を付け通年同じものを使用し、個々に応じた休息や睡眠をとっている。乳幼児突然死症候群予防マニュアルに沿って、睡眠時の呼吸チェックを0歳児は5分毎、1,2歳児は10分毎、3歳以上児は30分毎に行い、午睡表に記載している。1歳未満児の救命処置やSIDS発見時対応訓練を行い、記録を整備し、緊急時に沉着冷静な対応ができるよう取り組んでいる。5歳児の午睡については、夏季のプール遊びが終了した頃から徐々になくしていき、小学校入学後の生活にスムーズに移行できるよう家庭との連携を図っている。			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
主体性を尊重することの意味を考え、遊び込める玩具の量や環境構成が期待される コーナー保育、縦割り保育、グループ保育など子どもの状況に応じて様々な保育形態を工夫し、子どもの自主性、自発性を育む保育環境づくりに努めている。個別のマークは進級と共に持ち上がり、自分の物や場所を明確にしている。子どもの手の届く所に玩具を配置し場所的感覚を養い、絵本の読み聞かせにより言葉を引き出し創造性を育み、歌遊びや手遊び等で言語理解を深めている。今後に向け、一人ひとりが十分に遊び込める量や場所が提供できているかを確認し、発達年齢に応じて遊びを選択できる種類やコーナーの設定など更なる充実が期待される。 様々な遊びや表現活動を楽しみ、遊びを通してルールを守る大切さを知らせている 「だるまさんがころんだ」、「花いちもんめ」等の伝承遊び、「なべなべ底抜け」等のわらべ歌遊びに親しみ、楽器に触れる機会を持ち、音楽活動を取り入れ、絵具遊び、ボディペインティング、泥んこ遊びを通して五感を刺激し、様々な表現活動を楽しんでいる。遠足、月見、ぶどう、花火、魚など自分たちが見た経験したことを描いた作品は、各クラスの廊下に展示され季節を彩っている。集団でのリトミック活動やドッチボールなどルールのある遊びでは、決まりを守る必要性や友だちと折り合いをつける大切さを知らせ、道徳性や規範意識を育てている。 積極的に戸外に出て存分に体を動かし、自然の美しさや季節の変化を体感している 保育目標に掲げている「丈夫な心身を作る」、「生き物や自然を大切にする」に基づき週案を立案し、散歩記録を作成し、有栖川記念公園等、園周辺の公園に出かけ、広々とした戸外で存分に体を動かす機会を積極的に取り入れている。411.55㎡の園庭で子どもたちは毎日伸び伸びと遊び、プランターでナス、きゅうり、ゴーヤなど季節の野菜を栽培している。港区とあきる野市との環境交流事業の一環として、あきる野市での自然体験や環境学習など、園外活動を通して動植物に触れ、虫を発見したり木製コースター作りを体験したり、活動の幅を広げている。			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目4の講評			
行事のあり方について職員間で検討し、計画的に取り組む、翌年につなげている 日常の延長に行事があり、日頃の活動を膨らませ達成感を持てるように取り組むという園としての考えを持ち、感染症対策のため縮小や中止等の変更を検討しながらも可能な限りの開催に努めてきた。「行事記録」に、ねらい、準備、当日の子どもの様子、評価、今後の課題を記載し、副園長がコメントを記入して翌年の取り組みにつなげている。季節の文化伝承(七夕、月見、ひな祭り)、定期開催(誕生会、プール開き)、保護者参加(親子ふれあい会、運動会、生活発表会、卒園式)等の行事を実施し、自分たちで出来るようになったことを披露している。 子どもたちが主体となり、みんなで楽しむために創意工夫をしている みんなが快適に自己発揮できるよう、子どもの自身の満足と保護者の気持ちに配慮している。0,1,2歳児の親子ふれあい会は、発達年齢に即して医療的ケア・障害児クラスの親子も参加し、3,4,5歳児の縦割りで行った運動会は、戸外に出ることが困難な子どもに配慮し、遊戯室で行っている。年長児の「小さな子にも見てもらいたい」、「みんなを応援したい」という心の育ちを大切に、行事のプログラムに子どもの絵を挿入したり、職員提案による親子ふれあい会のクラスキャラクターを作ったり、みんなで楽しむために創意工夫をしている。 自分たちで考え作り上げていくプロセスを大切に、達成感を味わっている クラス毎に話し合いの機会を設け、前年度の活動を振り返る中で子ども同士のイメージを共有している。子どもと職員とのやり取りを経て、子ども同士の話し合いに発展させ、子どもの意欲を引き出している。夏祭りでは自分たちで屋台の内容を決め、神輿を共同制作したり、運動会ではダンスの曲目を選んだりしている。コロナ禍を反映して「みんなでやりたいけど、いっぱい入れないから半分でやろう」など子どもの声に耳を傾け、仲間と協力してやり遂げることの喜びを実感できるよう援助している。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○非該当
評価項目5の講評			
長時間保育の子どもに配慮し、ゆったりとした環境の中での関りを大切にしている いつでも休息が取れる畳コーナーや、パーテーションで部屋を区切り、机上遊び用の塗り絵や色鉛筆を用意するなど、落ち着いて過ごせる環境を工夫している。厚生労働省が定める保育所保育指針に示されている養護の部分を重要視し、子どもの甘えに応じてスキンシップを十分にとれるよう、夕方のパート勤務者を固定し、ゆとりある職員配置に努め、ゆったりとした環境の中で細やかな援助を心がけている。補食や夕食の提供時は、保育士は子どもの見守りと援助に専念できるよう調理職員が配膳するなど職種間の連携があり、子どもの安全と安心を担保している。 保育形態の変化に伴い、在園時間の異なる子どもが共に過ごすことへの配慮をしている 一日の生活リズムの異なる子どもたちが共に過ごすことを踏まえ、子どもの緊張と開放の調和を図れるよう職員間で検討している。早朝保育は、外部からの電話対応、学校110番、門扉施錠管理が可能な2歳児室を使用し、登園時の受け入れに配慮している。延長保育は事務所前の一時保育室を使用し、迎え時には可能な限り子どもの様子を伝えて保護者に引き渡せるよう努めている。長時間集団の中で過ごす子どもの疲れや心情に寄り添い、7日間連続して登園し、常に集団で過ごす子どもの思いを代弁して伝えつつ、保護者の就労を支援している。			

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
評価項目6の講評			
メニューや味付けの工夫をし、温かく栄養バランスのとれた食事を提供している 港区の統一献立を使用しながら、園児数が多く単純に人数計算をした分量では野菜の水分量により味が薄くなるため、味付けを調節し野菜のうま味を活かした給食を提供している。スープや汁物は温かい状態で提供できるよう、保育室で子どもの顔を見ながら、個々に応じた量を盛り付けている。毎月の献立表を配付し、子どもの目の高さを考慮した展示食コーナーは好評であるが、保護者には見づらい位置となっている。今後に向けて、例えば「今日の給食」と称して写真と栄養士のコメントを載せて、毎日アプリ配信するなどサービスの向上が期待される。 港区のマニュアルに基づき、食物アレルギーのある子どもに配慮した対応をしている アレルギー児の献立は港区のマニュアル等に準拠し、アレルギーチェック済みの献立を使用し、代替え食及び除去食を提供している。毎月、保護者、栄養士、看護師の三者で翌月の献立を確認し、保護者にサインをもらっている。アレルギー児の調理を担当する職員を固定し、専用食器にラップをかけ当該児の名前を声に出して確認し、アレルギーチェック用のノートに調理職員3名と保育士のサインを記入している。パーティションを活用し座席を決め、食事介助をする職員のエプロンを特定し、看護師も近くで見守り、誤配や誤食の予防を徹底している。 食育活動を通して、子どもの食への興味、関心を高めている 子どもたちが栽培した夏野菜(ナス、きゅうり、ゴーヤ)を収穫して給食室に運び、よく洗ってもらい袋に入れて塩もみを体験したり、給食の食材として提供したり、コロナ禍でも実施できる食育活動を考え取り組んでいる。七夕、月見、餅つき、ひな祭り等の行事食や、誕生会のフルーツゼリー、二色団子など子どもが喜ぶ盛り付けをしている。ガラス張りの給食室は、子どもがいつでも調理過程を観察でき、カットする前の丸ごとの果物を見たり、調理職員との対話が生まれている。栄養士は保育室を巡回し、子どもたちの食べている様子を把握している。			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
看護師による健康教育に取り組み、病気や怪我を予防している 子どもが自分の体に興味を持つよう、歯科医が制作した「子ども向け歯磨き指導」のビデオを視聴し、なぜ歯が抜けるのか、乳歯と永久歯の違い等を知らせている。怪我をした子どもを医務室で手当てする際は、どうして怪我をしたしまったのか尋ね、次はどのようにすれば痛い思いをしないで済むか、自分の体を守るか等、子ども自身が考えられるよう支援している。毎日の登園児や病気で欠席した子ども、保育中の個々の健康状態等を保健日誌に記録し、園児だけでなく職員とその家族の健康状況も把握した上で感染症予防対策を講じている。 医療的ケアや個別の配慮が必要な子どもの情報は、職員間で共有し迅速に対応している 病院勤務経験のある専属の看護師による手厚い援助や個別の支援を継続し、専門機関との連携に基づく迅速な対応をしている。子ども一人ひとりの症状や配慮、与薬方法、医療機器の使用、緊急時の対応等を担当者間で確認し情報を共有している。医療的ケアを必要とする子どもを担当する看護師と、年齢別クラスの子どもの担当する看護師はそれぞれ分かれており、両チームの看護師が看護業務全般の課題を検討したり、ケースカンファレンス等の意見を交換する場を設けることにより、9名の看護師が連携を深め、更なる専門性を発揮することが期待される。 保護者との連携を図り、理解や協力を得ながら、子どもの健康維持に努めている 看護師は全園児の入園面接に参加し「入園のしおり」に沿って健康面の説明を行い、乳幼児突然死症候群(SIDS)予防のため、あお向け寝の大切さを知らせ、保護者からの質問に答えている。アレルギー、疾病、障害や医療的ケアを必要とする子どもが入園する際は、必ず看護師による入念な聞き取りを行い、書類を取り交わすなど保護者との連携を図っている。保健だよりの配付、身体測定、歯科健診、内科健診、年5回の手洗い指導を実施し、発熱後は子ども自身の回復のために解熱後24時間経過しての登園を呼びかけ、健康維持に努めている。			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
保護者の就労や個別の状況を支えるサービスを提供している 朝保育、夕保育、延長保育、22時までのスターライト保育、日曜祝日の保育、年末保育、障害児保育、医療的ケアや食物アレルギー等配慮を要する子どもの保育など、個別の事情に応じて様々なサービスを提供し、保護者の就労を支援している。園行事は保護者の参加しやすい土曜日に開催し、個人面談の際は、子育ての悩みや職員に聞きたいことを尋ねる「面談前アンケート」を実施している。定期的な面談以外にも心配事があるときは希望に応じて個別面談を随時行い、信頼関係を深めている。これらの取り組みは保護者の養育力向上にもつながっている。 子どもの家庭や地域での育ちを視野に入れ、連携、交流のあり方を考えている 園独自にアンケートを実施し、一人ひとりの保護者の状況、抱えている思い、求めていること等を把握し、集約結果を配付するとともに保育に反映させている。誕生児に向けたメッセージと写真を家庭から預かり、一定期間園内に掲示し、手作りカードに貼り替えて手渡したり、誕生児の保護者は希望に応じて3,4,5歳児の誕生会を参観し、成長を喜び合っている。親子で絵本に触れ合う機会を増やすために設置した絵本コーナーは、在園児はもとより一時保育や「保育園であそぼう」に来園した地域の親子も利用でき、保護者との連携や交流の場を提供している。 園の活動への参加を呼びかけ、保護者と園との相互理解や共通認識を図っている 園だよりやクラスだよりをアプリ配信し、毎月の指導計画に関連した保育のねらいを知らせ、様々な遊びを通して学びの芽生えや学びに向かう姿勢を育んでいることを伝えている。リズム遊びの目的や運動会など園行事に向けた取り組みや見どころを書面で伝え、「パパママ保育体験」やクラス別保護者会への参加を呼びかけ、日頃の活動を写真とコメントで可視化したドキュメンテーションを掲示するなど、保護者と園との相互理解や共通認識を図っている。玄関ホールに相談窓口の連絡先掲示がクラスプレートに隠れており、貼り替え等の工夫が望まれる。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
地域資源を活用して連携を図り、交流の機会を確保している 積極的に園周辺の公園に出かけ、出会った人と挨拶を交わし、地域との関係性を築いている。地域資源を活用した科学館でのプラネタリウム観賞、警察署に依頼した交通安全教室、勤労感謝の日になんで消防署へ子どもの絵を届けるなど、子どもたちの発案を大切にしながら多様な経験を重ねている。4,5歳児を中心に区立園や私立園と連携し、他園の園庭で遊ばせてもらったり、自園の園庭に遊びに来てもらったり、ドッチボールなど近隣園との交流を実施している。これらの取り組みは今後も継続的に行う予定があり、子どもの経験の幅を広げている。 在園児の兄弟も参加できるようにし、職員以外の様々な人と交流できる場を設けている 七夕、夏祭り等の園行事に在園児の兄弟も参加し、他園に通所している乳児や小学生も参加して家族で楽しんでいる。子どもが様々な人と交流できる場を設けている。地域の子育て家庭を対象に「保育園であそぼう」を実施し、身体測定や個別面談にも応じている。年間予定表を作成し、わらべ歌、手作り玩具、楽器遊び、お話会等に参加を呼びかけているが来園者は少なく、「保育園であそぼう」のポスターをリニューアルして更なる広報活動が期待される。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル①	一人ひとりの違いを大切にし、多様性を尊重して子どもの生活する力や姿勢を育んでいる	
内容①	保育方針に掲げる個性を大切にした保育を行うために、園と家庭との情報共有を図り、一人ひとりに合った見守りと援助を行っている。外国籍の家族、障害や医療的ケアなど個別の支援が必要な子どもを積極的に受け入れている。子どもの言語環境や食文化などの違いの理解につながり、異文化を楽しむポジティブな姿勢を大切にするという園としての考えを持ち、子どもの気持ちを尊重し生活する力を育んでいる。国際交流計画を作成し、毎月のテーマに沿って、外国人講師による英語遊びを通じて全年齢の子どもが多様な関わりを楽しんでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
タイトル②	様々な子どもたちを積極的に受け入れており、個別具体的な配慮のもと保育を開始している	
内容②	当園は、区で初めての医療的ケア児・障害児クラスを持つ保育所である。また地域柄、外国籍の児童も多く入園してくる。多彩な子どもたちを積極的に受け入れているため、入園前の面談、慣らし保育計画は、個々に即したものになるよう努めている。アセスメントのための個別面談に加え、医療的ケア児・障害児については家庭訪問も必ず行い、自宅の環境を見るようにしている。その際、看護師が立会い、必要な情報を聴き取りしている。新規入園の子どもたちが、園の生活によりストレスなく馴染んでいけるよう、気配りしていることが確認できた。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル③	特別事業を行い港区の「子育て支援施策」に貢献している	
内容③	障害児保育の体制を整えて医師、心理士、言語聴覚士、作業療法士の巡回によってアドバイス受ける体制が出来ている。一時預かり保育、休日保育・年末保育を実施し、延長保育は22時までとしている。また、地域で子育てをしている方を支援するために「保育園であそぼう」で園を開放して様々なプログラムを用意している。在園の保護者に、日常の保育の場を知ってもらうため「保育園体験」を行っている。さらに、保護者向けにカウンセリングを行い、育児支援を行っている。このように、港区の拠点園としての役割の発揮に努めている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもたちが様々な経験や刺激を受け、豊かな園生活が送れるよう専門機関との連携を図り、インクルーシブな保育を実施している
	内容	港区で初めて医療的ケア児、障害児の集団保育を行う園として他県からの見学もある。児童発達支援センター等の専門機関と連携し、港区の作業療法士、言語聴覚士による巡回相談のほか、臨床心理士による巡回や保護者カウンセリングなど個別の支援を行っている。インクルーシブな保育を実施し、異年齢チームの誰もが参加しやすい運動会を開催している。また、柵に目立つ色のテープを巻き、視覚障害児の安全にも配慮したりしている。
2	タイトル	各クラスに子どもの人権に関する書籍が配備され、会議等で読み合わせが行われている
	内容	各クラスに、子どもの人権について記載された書籍が配備されている。これは法人(本部)が配布しているもので、職員はいつでも自由に閲覧できるようになっている。自主的な閲覧のみならず、各種会議の場でも、本の読み合わせが行われている。巻末には子どもの権利条約が掲載されていた。併せて、自己チェックシートも挟み込まれており、自身が子どもの人権や幸せを大切にして保育を行っているか、定期的に振り返りの機会もある。
3	タイトル	新設園として起こる運営上の課題について、その取り組みを本部が中心となって分析し園に助言して改善への展開を行っている
	内容	法人は、傘下の保育を行っている事業所の職員を対象に「職員満足度調査」を毎年行っている。当園は運営を開始して3年のためデータの蓄積は少ないが、調査項目は12項目(仕事、業務負担、上司、人間関係、環境等)の多岐にわたっている。結果の分析は、客観的な数値解析で行われ、年度比較や系列他園との比較によって問題点の抽出が行われた。結果からPDCAのサイクルに従って解決に向けた姿勢がうかがわれる。また、職員の中から更に質の高い仕事への意識も見受けられた事も今後期待すべき点となっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	それぞれの子どもの発達過程に合わせて遊びの環境を整え、子どもの発達状況に応じて環境構成を変化、発展させていく取り組みが期待される
	内容	子どもたちが意欲、興味、関心を持ち、仲間と協調して取り組む力や姿勢を育てる環境作りに努めている。訪問調査当日は運動会前ということで室内のコーナーは撤去されていた。子どもの発達には環境との相互作用によって促されるため、複数のコーナーを配置し、子どもが選択できる種類と十分に遊び込める量の玩具を揃えることが望ましい。柵に玩具の写真やイラストを貼り片づけやすくし、手にしている玩具と柵に貼ってある写真やイラストが同じものであるという認識力を高めるなど、遊びと生活の両面から援助をする取り組みが期待される。
2	タイトル	職員の育成や定着に向けて、取り組みに対する職員の理解を深めるとともに、成果につなげていくことに期待したい
	内容	当園では、法人(本部)と連携して職員の採用に努めている。また、入社後の配属でのミスマッチを防ぐよう取り組んでいる。園では、長期的な展望に立った人材育成の方針を明確にして、各職員がそれぞれ目標を持って仕事に従事できるような指針が定められている。しかし、今回の職員自己評価の結果からは、職員育成や定着に対して、職員から改善を期待する意見が寄せられていた。様々な取り組みに対する経営層と職員との意識の差も窺えた。今後は、職員の育成や定着に関する取り組みについて、職員の理解を深め、成果につなげていくことに期待したい。
3	タイトル	利用者調査での回答や、寄せられた意見を踏まえて、保護者が安心して相談できる仕組みの構築が期待される
	内容	今回の利用者調査では、保護者からの問い合わせに対する対応や、外部の相談窓口の周知などに関する項目において、他の項目と比べて否定的な回答が多い傾向にあった。また、保護者からの個別の問い合わせ対応についても改善を期待する意見が複数寄せられた。今後は、保護者に対して、相談窓口などを分かりやすく周知していくとともに、従来以上に保護者の不安を解消できるような対応に注力していくことに期待したい。保護者が、安心して相談できる仕組みの構築が期待される。